



# でらボラNAGOYA通信

2016年 5月号

真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク 発行

再び、大地が揺れた。再び、人の心が揺れた。  
私たちの思いはいつでも同じ。  
出来ることを精一杯やる。ただそれだけ。

## でらボラ NAGOYA 熊本地震支援活動報告

【4月14日】

午後11時を過ぎた頃、でらボラ会員に一斉メールが配信された。2016年4月14日午後9時26分、熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さが11KM、マグニチュード6.5の地震が発生し、熊本県益城町で震度7を観測。「でらボラ会員内で地震に関する情報を共有し活動内容を決めていこう」と連絡が入る。詳細は不明。不安なまま一夜が過ぎていった。



地震直後の熊本の様子

【4月18日】

4月16日午前1時25分、再度発生したマグニチュード7.3、震度6強の地震により、熊本教区および日豊教区内に大きな被害がでる。支援活動を開始している熊本仏青、仙台・四国から現地で支援活動に入った方へ、でらボラ基金から物資購入費として支援金拠出。

支援金額:熊本仏青へ10万円、仙台・四国から現地支援にあたる大谷派ボランティアへ3万円。

### でらボラに寄せられた現地報告

家の中にいるのが怖くて、車の中で寝泊りしてる人が かなりいる。自衛隊が入っていないような、小規模の避難所の環境が悪い。避難所格差が激しい。水は不足している。その他の需要に関しては、タイミングによって変動が激しいので安易なことが言えない。継続して救命活動がされている時期なので、ボランティアセンターは、それが落ち着くまでは設置されない。一般ボランティアは、それまで入らないように。ただ、自分で全て完結できる経験のあるボランティアは、様々な場面で必要とされている。(4月17日付)

【4月19日】



発送を待つ支援物資

大谷派の寺院より依頼を受け、熊本へ支援物資を送る。物資の購入はでらボラ会員個人で行い、段ボールおよび送料のみ、でらボラ基金から拠出する。トイレットペーパーや除菌スプレーなど計25品目、段ボール12箱分になった。

※ 送った支援物資内訳は、でらボラ HP からご確認いただけます。



<http://derabora758.server-queen.jp/news>

## 【4月28日】

阿蘇より支援物資の依頼を受ける。被災された家の家財整理などのため、滑り止め付き軍手 56双、ソフト背抜き手袋 30双、水仕事用手袋 9双、耐油手袋 3双、布テープ 30個、段ボール 200箱を発送。送料込みで31,190円の費用は、おけぞっくん基金として高橋和さまよりお預かりした支援金を充当。



段ボール 200箱は注文先から直接発送

## 【4月24日～5月1日】

東別院会館前にて「熊本地震義援金募金活動」を開始する。名古屋教区では宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要が行われ、たくさんの方からの義援金<sup>※1</sup>を賜ることができた。お預かりした義援金は、直接現地の方にお渡しした。

募金をして下さった方、関係各位のご支援ご協力に感謝申し上げます。



現地での炊き出しの様子

## 【5月6日】

でらボラメンバー4名が熊本での現地支援活動に参加。上記募金活動で集まった支援金のうち50万円を「TEAM 熊本」へ現金を手渡す。また、一番被害が大きかった益城町の避難所でお昼の炊き出しを行った。昼食にはパンが出されるということで、卵スープを添えて、手作りポップコーン、コーヒーを提供した。



当日は約400人の人が集まった。

「うわ～、コーヒーなんて久しぶり！」と子どもを抱えながらホッとした顔でおいしそうに飲んでいたお母さんが印象的でした。熊本の寺院の被災状況は深刻で、液状化現象が起きている寺院もあり、疲労困憊、精神的にもかなりつらそうでした。「TEAM 熊本」メンバーの中には、連日、入浴することもなく雑魚寝状態で過ごしながらも炊き出しを続けている方がみえて、頭が下がる思いです。（でらボラメンバー 竜沢）

※1

## 御遠忌期間中の熊本義援金募金のご報告

24日	288,240円
26日	8,851円
27日	2,613円
28日	9,272円
29日	137,773円
30日	56,902円
1日	68,287円

合計 571,938円



子どもたちからもたくさんの義援金をいただきました。

「東日本大震災の時も、一番現場で効果的に柔軟に対応できるのが、現金の寄付でした。足を運べない人の想いを託すのは、動いている人たちの背中を一番押してくれます。」

（熊本で支援活動にあたっておられる仙台教区 内藤淳心さん）

たくさんのご支援ご協力をありがとうございます。